チェンバー？

水星交響楽団　チェンバーシリーズ第２回演奏会

Mercury Symphony Orchestra Second Concert "Chamber-Series"

2003年1月26日(日)14:00開演

第一生命ホール

■ご挨拶

本日は、お忙しいなか、私ども水星交響楽団の演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。
当楽団は1984年に一橋大学管弦楽団の若手有志を中心に結成され、年に2回の定期演奏会を主な活動として参りました。昨年夏に30回という節目の定演を迎えることができましたが、今回は前回の超濃厚プログラムとは若干趣きを変えた、比較的編成が小さな曲目を集めた演奏会です。「比較的小さい」といっても立派な3管編成の曲もはいっていますが、1997年の第1回チェンバーシリーズ以来、なかなかとりあげられなかった佳曲ばかりを集めた演奏会と自負しております。
水響も今年で設立19年目となりますが、設立当初の「現役時代にできなかった曲をやろう」という精神は脈々と生きており、今回の4曲も、結構オジさんオバさんが増えてきたオケにしては非常に挑戦的なプログラムとなっています。なんでチェンバーかさっぱりわからない編成ながらも聴いてみると実に室内楽的な響きに満ち溢れるミヨーをはじめ、聴いていてただただ楽しいイベール、作曲家としてブラスファンにはおなじみですが滅多に演奏されることのないリードに加え、水響初のハイドンであるロンドンと、今回も決して皆様を飽きさせることはないと思います。あまりいい話題の少ない昨今ですが、本日は、21世紀になってオープンした素晴らしいホールである第一生命ホールで、午後のひとときをゆったりとお過ごしいただければと団員一同願って止みません。
最後になりましたが、いつも大変にお世話になっている一橋大学管弦楽団の皆様をはじめ当楽団を支えてくださるさまざまな方々に厚く御礼申し上げます。
それではごゆっくりとお楽しみください。

水星交響楽団運営委員長　植松隆治

ダリウス・ミヨー	プロヴァンス組曲
ジャック・イベール	ディベルティメント
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 休　憩 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆	
アルフレッド・リード	金管と打楽器のための交響曲
ヨーゼフ・ハイドン	交響曲第104番ニ長調「ロンドン」

指揮:齊藤栄一

管弦楽：水星交響楽団

齊藤栄一

京都大学にて音楽学を、国際基督教大学大学院にて美術史学を研究。この間、指揮法を尾高忠明、田中一嘉、円光寺雅彦の各氏に学ぶ。また、1981年には、京都大学交響楽団とともに2週間にわたりドイツ、オーストリアにて演奏旅行を行い、ザルツブルグ音楽祭などにて指揮する。1982年には、関西二期会室内オペラ・シリーズ第9回公演、ブリテン作曲「ねじの回転」(関西初演)の副指揮者を務める。1984年より、水星交響楽団の常任指揮者に就任。1995年には東京文化会館で水星交響楽団、オルフ祝祭合唱団、佐多達枝バレエ団と、完全舞台形式「カルミナ・ブラーナ」を、また、一昨年3月にはラヴェルの舞踊交響曲「ダフニスとクロエ」全曲を指揮。作曲もてがけ、これまでに「スーダラ節の主題による交響的変容」(管弦楽曲)「シンフォニエッタ」(金管十重奏曲)「ミサ・ブレヴィス」(無伴奏合唱曲)などを発表。また著書として、「振っても書いてもしょせん酔狂」(水響興満新報社)、「往還する視線　１４－１７世紀ヨーロッパ絵画における視線の現象学」(近代文芸社)がある。現在、明治学院大学文学部芸術学科教授。

■曲目紹介

☆ダリウス・ミヨー　プロヴァンス組曲

「もしも地中海共和国というものが存在するならば、南仏プロヴァンスはまさしくその首都と呼ぶにふさわしい。この地は光あふれるパラダイスだ」

「地球の歩き方(南仏プロヴァンスとコート・ダジュール&モナコ)」によると、プロヴァンス地方はこのように紹介されています。行ってみたいなあ。

ダリウス・ミヨー(1892-1974)は、プロヴァンスの中心地「エクス」(エクス・アン・プロヴァンス)に生まれ、パリに移り住むまでの少年時代(17歳くらいまで)をそこで過ごしました。その後彼は2年間のブラジル滞在(1917-1918)を経て再びパリを中心に活動し、いわゆる「フランス6人組」の一人として名声を確立しました。そして1936年、40代半ばに「プロヴァンス組曲」を作曲しました。

この曲には、素朴さ、なつかしさ、あたたかさがあり、ミヨーの故郷プロヴァンスへの愛着が非常に感じられます。それに加えて、「フランス音楽」としての特質(明快で、軽くて、あっさり、さっぱりした感じ)と、「近現代音楽(当時西欧音楽の最先端)」としての特質(古典への回帰、不思議な和音、複雑なリズム、ジャズの影響等)をあわせ持った音楽になっていると思います。「光あふれるパラダイス」にふさわしい、とても明るく楽しい曲です。

この作品は、以下の短い8つの曲からなっており、プロヴァンス地方の民謡や、プロヴァンス出身の先輩作曲家アンドレ・カンプラ(1660-1744)の作品等がかなり引用されているようです。また各曲にはいかにもプロヴァンスらしい副題が付いています。

Ⅰ. 番人たち(Guardians)
　いきなり華々しく始まります。堂々とし、賑やかで、なんだか複雑だけど素朴な感じがする、行進曲風。

Ⅱ. アーモンドの収穫(Cueillette des amandes)
　そよ風が吹く。実は先輩カンプラの「TANCREDE」というオペラの中の1曲(いわゆるバロック音楽)を丸ごとリメイクしたもの。ちなみにミヨーの父はアーモンド商を営んでいました。

Ⅲ. ペタンク(球技)をする人たち(Joueurs de boules)
　のんびりとそぞろ歩き。それとも競技中？(ペタンクはプロヴァンス生まれのゲートボールに似たのんびりした球技で、現在フランスでの競技人口は500万人だそうです)途中で立ち止まって一息。故郷への、そして少年時代への想い。

Ⅳ. 漁師たち（Pêcheurs）
威勢がいい。爽快。元気な曲。

Ⅴ. 猟師たち（Chasseurs）
物寂しい。途中で雰囲気が変わり、安らかな感じに。

Ⅵ. ブドウの収穫（Vendanges）
なにかに追い立てられるような音楽。何をそんなに急いでいるのか。

Ⅶ. 羊飼いたち（Bergers）
２曲目の再現があり、その後一転してちょっと重々しい音楽。

Ⅷ. ファランドール（Farandole）
ビゼーの「アルルの女」でも有名なプロヴァンスの舞曲。輪になって踊る。笛と太鼓が印象的。本来は一人の奏者が左手で太鼓、右手で笛を演奏しながら行進するそうです。

（高橋 淳）

☆ジャック・イベール　ディヴェルティメント

さて前曲でフランスの田舎情緒に浸っていただいたあとは、喧騒と洒脱の都パリに皆様をお誘いします。
19 世紀中頃、パリでは「コメディ・ヴォードヴィル（**Comedie Vaudeville**）」といわれるドタバタ喜劇が一世を風靡しました。フランス革命の頃から市民層を中心に盛り上がった演劇愛好熱を背景に、風刺のきいた一幕ものの縁日芝居として発生し、ナポレオン３世の時代に花開いたコメディ・ヴォードヴィルは、パリ中を爆笑の渦に巻き込んでいたのですが、そんな人気劇作家のひとりに、ユジーヌ・ラビッシュ（**Eugène Labiche**）がいました。代表作「イタリアの麦わら帽子（**Un chapeau de paille d'Italie**）」（1851 年）のドタバタぶりは、いま原典が手許にありませんので多少想像を交えて書きますと、こんな感じです。

主な登場人物は、人妻、その浮気相手の軍人、結婚披露で馬車を連ね田舎町を練り歩く馬持ちの花婿。
人妻が軍人と逢瀬の最中、人妻は（夫から贈られたのであろう）イタリア製の高価な麦わら帽を、軍人の乗ってきた馬に食べられてしまう。
浮気の発覚を恐れた人妻と軍人は結婚の行列に討って入り、馬の持ち主である花婿に、同じ帽子で償えと迫ったため、行列は大混乱。花婿は花嫁を放り出して家に取って返したりしたので、すわ成田？離婚だ、結婚解消だと、親族も大騒ぎ。
あちこち聞き回りようやく同じ型の帽子を持っている人の情報を得て、花婿が訪ねたその家は、なんと人妻の家だった。花婿はそんなこととはつゆ知らず、主人に事情を話そうとするので、危うく浮気が露見しそうに。親族も押しかけてきて、家のものをひっくり返したり持ち出したり大立ち回りとなり、警察まで出動。
ふと気がつくと、花婿の婚礼祝いの中に、叔父がイタリアから取り寄せた同じ帽子があることがわかり、なんとか一件落着。

1929 年、オランダのアムステルダム劇場は、この愉快な喜劇を上演するにあたり、イベールに劇中音楽の作曲を依頼しました。「ディヴェルティメント」（仏語では『ディヴェルティスマン **Divertissement**』）は、この中から彼自身が主要な６曲を選んで独立した組曲としたものです。オーケストラの編成がずいぶん小さいのは、そもそも劇の付随音楽として、おそらくは舞台のすみっこでこぢんまりと演奏されることを前提に作られたからなのでしょう。
それぞれの曲は長いもので５分程度、短いのは１分半、全曲でも 20 分足らずで、劇の進行と同様、楽しいメロディに乗って歯切れよく次から次へと場面が転換していきます。イベールらしい旋律線と構造のわかりやすさに、意図的とも思える安っぽさや荒っぽさがスパイスになって、この当時の大衆文化の匂いがよく伝わってきます。
おっと、イベール自身の紹介を忘れていましたね。イベールは 20 世紀前半のフランスの作曲家で、ミヨーとも同世代ですが、第一次大戦で海軍に志願したため、「６人組」には名を連ねませんでした。必ずしも著名な作曲家とはいえませんが、彼の「フルート協奏曲」を知らないフルート吹きはモグリですし、また、交響的絵画「寄港地」は吹奏楽コンクールでよく編曲版が演奏されるので、イベールはわからなくても「寄港地」は知っていると

たとも言えるでしょう。後輩モーツァルトの良い所をも取込み、ベートーヴェンにも直接つながっていく作品群だと思います。

前回の「ジュピター」同様、楽曲の細かい説明は省かせて頂きます。これぞ交響曲の手本というような曲ですので、聴いて頂ければその良さはわかって頂けると思います（もちろん演奏が良ければの話ですけど）。

第１楽章　アダージョ～アレグロ　ニ短調～ニ長調　4/4～2/2拍子　序奏付きソナタ形式
第２楽章　アンダンテ　ト長調　2/4拍子　変奏曲的要素を含む３部形式
第３楽章　メヌエット　アレグロ　ニ長調（トリオ：変ロ長調）　3/4拍子
第４楽章　スピリトゥオーソ　ニ長調　2/2拍子　ソナタ形式

楽器編成　フルート２、オーボエ２、クラリネット２、ファゴット２、ホルン２、トランペット２、ティンパニ、弦５部

（今回だけセコバイのわがままヴィオラ弾き　川俣）

■水響の運営を支える縁の下の力持ちの面々

今日は本番です。いよいよこれまでの練習の成果が発揮される時がやってきました。

しかしながら、この本番を迎えるためには、練習以外のいろいろな運営のための仕事も必要です。この仕事は一部の団員で分担しながら担当しています。日頃はあまり目に見えることはありませんが、ここでは、その縁の下の力持ち達の活動を少しご紹介しましょう。

例えばどんな仕事があるかといいますと、まず、演奏会に関係するわかりやすいところから言えば、今日演奏しているホールを予約する係の人たちがいます。このメンバーは、早いときには、それぞれの演奏会のなんと２年前から準備をしています。大きなホールの予約は１年半も前から始まるところがあるからです。もちろんこの係の人達は、その時に演奏されそうな曲の編成の大きさや、より多くのお客さんに聴いていただけるように、ホールの人気や場所、予算等いろいろなことを配慮して決めています。団員は、そのホールについての情報の早さに驚かされることしきりです（情報源は何でしょう、電話帳かな？）。

それから、今皆さんが読んでいらっしゃるプログラムを作成する係があります。このプログラムの作成もなかなか大変で、原稿も団員で手分けをして執筆をしているのですが、中には筆の遅い人もいて、その原稿催促でとっても苦労しているようです（私も遅くなってごめんなさい！）。

あと、レセプション係なんていうのもあります。今日も演奏会が終わった後に、その成功を祝して（あるいは反省を兼ねて）打ち上げコンパを行う予定ですが、その手配等をしています。団員には飲み助が多いので、予算がオーバーしないかと、はらはらしていていることも多いとか（でも最近は飲み放題のお店も多いので、少し助かっています？）。

また、日頃運営していく中での仕事としては、会計係があります。団員の中には部費をなかなか払ってくれない人たちもいるので、会計係の人たちはいつも部費集めや演奏会のノルマ集めに苦労しています。もっとも会計係の中に銀行に勤めている人もいて、最近は銀行振込でも支払える様になりました。このため、滞納している人でも怒られずに支払えるようになったので、ちょっと回収率が上がったなんて話も…（あります？）。

ちなみに、この原稿を執筆している私も”ライブラリアン”という係を担当しています。この係は楽譜の調達などを主たる仕事としているのですが、当楽団は、世にも稀なる曲ばかりを取り上げるので、譜面の調達が楽とはいえません。でも、この選曲こそが水星交響楽団の良いところ、と思って頑張っています（もうちょっと曲を早く決めていただけるとうれしいのですが…）。

ここでご紹介した以外にも、より多くのお客様にご来場頂くために奔走し、入場者数が少ないと飲まされ、呼びすぎて定員オーバーになると坊主頭にされるという広告宣伝係、出欠の確認に気が抜けない合宿係、いつも仕事のために演奏会の打ち上げコンパに参加できないコンバス（打楽器国立運搬）隊など、実にいろいろな係があります。

どの仕事も大変ですが、運営を支えるためにと、みんな頑張っています。

（ちなみに、各係では若い団員のメンバーを募集しています。そして係以外の団員の皆さんも、円滑な運営のために、是非是非、係の仕事にご協力してくださいね!）

（本名だと絶対誰だかわからないトロンボーン吹き　高橋康昭）

水星交響楽団

常任指揮者：齊藤栄一
コンサートマスター：吉田健一郎
副指揮者：榎原尚徳
金管トレーナー：山田裕治　弦楽器トレーナー：小田透
ホルントレーナー：古野淳

1st Violin
生駒　陽子
黒川　夏実
鈴木　尚志
鈴木　牧
豊田　由起
野村　国康
松本　祥世
吉田　健一郎

2nd Violin
大平　あかね
川俣　英男
川俣　三枝子
斎藤　佐江
祐成　秀樹
鈴木　真由子
徳地　伸保
前田　啓
米嶋　龍昌

Viola
有井　晶
井上　拓
木村　納
田北　佐和子
三上　さやか
宮崎　雅子
傅　冠昇

Violoncello
鈴木　皇太郎
橘　温子
東郷　丞
中山　佐知子
日吉　実緒
能岡　雅人

Contrabass
大西　功
刈田　淳司
長屋　裕大
深澤　雄己
堀内　直樹
本多　美佐子

Flute & Piccolo
岡本　淳子
川崎　裕恵
西村　かよ子
横尾　良子

Oboe & English Horn
小出　裕之
進藤　彩
野口　秀樹

Clarinet
大山　泰広
河西　亮子
西村　伸吾
横地　篤志

Bassoon
冨井　一夫
山田　幸彌

Horn
伊集院　正宗
榎原　尚徳
太田　美穂
岡本　真哉
北　典子
桑名　久美
小松　泰三
東森　智史
山形　尚世

Trumpet & Cornet
淺田　健二
家田　恭介
岩瀬　世彦
金子　恭江
田玉　詩織
林　美紀子
宮崎　幸恵

Trombone
櫻井　統
佐藤　幸宏
瀬古　義久
高橋　康昭
中村　佳央

Baritone
安孫子　佳和
佐藤　幸宏

Tuba
植松　隆治
小林　一成

Percussion
石川　誠
梶浦　未紀
高橋　淳
野川　真木子
山本　勲
吉村　恵一
渡辺　麻子

Piano & Celesta
石川　美幸

一橋大学管弦楽団
スプリングコンサート

日時：2003年4月13日（日）
開場：１３：３０　開演：１４：００（予定）
場所：東京文化会館

指揮：森口真司

メンデルスゾーン	「真夏の夜の夢」序曲
プーランク	牝鹿
ブラームス	交響曲第１番

全席自由　入場料：1000円／当日券有り

問い合わせ　070-5087-1950（平山）

水星交響楽団
第31回定期演奏会

日時：2003年8月31日（日）
開場：１３：３０　開演：１４：００（予定）
場所：東京芸術劇場

指揮：齊藤栄一

ウォルトン	ヨハネスバーグ祝典序曲
シベリウス	交響曲第５番
バーンスタイン	交響曲第２番「不安の時代」　他

問い合わせ　090-1608-5749（植松）